

声 明 文

平成28年7月26日未明、障害者支援施設「神奈川県立津久井やまゆり園」（指定管理者・社会福祉法人かながわ共同会）において、知的に障がいのある方々が計画的に襲われ、19人の尊い命が奪われ、26人の方が負傷されたことは痛恨の極みであります。

本会会員・関係者のみならず、多くの障がいのある方やご家族は、今回の事件に大きな不安と憤りを覚えます。鳥取県内の本人たちからも「私たちは一生懸命生きています。私たちは生きているのはいけないのですか」という悲痛な声も届いています。

今回の事件を特別だと考えるのではなく、障がい者に対する差別や偏見が根強くあることの表れと捉えるべきだと考えます。こうした差別や偏見に満ちた言動が、SNSなどへの無責任な投稿によって、模倣犯が現れ、この人たちによる障がい者への攻撃や虐待に繋がってしまうのではないかと心配でなりません。

鳥取県におかれましては、いち早く社会福祉施設等に対して利用者の安全対策と危機管理体制の徹底について通達を出されたと聞き及んでいます。しかしながら、防犯措置のみならず、利用者のご家族をはじめ地域社会の理解と連携のもと、利用者の人権を尊重した生活環境等を整えていくことが大切であります。

この事件とは別に、ここ数年、障害者支援施設での虐待の報道がつづき、なんら改善されない傾向が見受けられます。長年に渡る慣れから徐々にエスカレートし、それが虐待へとつながっていくのではないのでしょうか。県下でも多くの虐待事案が発生していますが、まだ、目に見えない小さなことは日常的に起きている可能性があると思います。

鳥取県におかれましても、関係機関や施設に対し指導はされていることと思いますが、今後、すべての障がい者を受け入れている施設・事業所・学校等の職員のスキルアップのための研修や保護者を迎えるの体験談などを聞く機会をもっと設けるなど、保護者と連携した対応も図っていただきたい。

併せて、このような事件や虐待の背後にある要因の一つとして、職場環境の問題があるとするば、職場の人員体制の整備や処遇改善など職員が働きやすい環境の整備についてもご尽力をいただきたい。

鳥取県では、「子育て王国鳥取の実現」、「あいサポート運動の推進」、「手話言語条例の制定」など誰もが住みやすい環境の整備が行われています。今回の事件を機に、県民一人一人が命の大切さに思いを馳せ、障がいの有る無しではなく、お互いに人格と個性が尊重される社会づくりに向けて前進していくよう切に願うところであります。そして、障がいのある人たちが安心安全に暮らすためにも、障がい者への差別ゼロと虐待ゼロを目指してください。

人はそれぞれ得手不得手がありながら、懸命に日々生活しているのです。障がいのある人を排除するのではなく、共生できる社会を築くことは、結局すべての人が住みやすい社会になると考えます。

鳥取県手をつなぐ育成会でも障がいのある子どもたちが地域で安心して暮らしていけるよう、会員をはじめ関係者としてしっかりと手をつなぎながら努力していく所存でありますので、今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

平成28年8月9日

一般社団法人鳥取県手をつなぐ育成会
会 長 大谷 喜博
会 員 一 同